

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2372202065
法人名	有限会社 真
事業所名	グループホーム まこと
訪問調査日	平成19年8月2日
評価確定日	平成19年12月14日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月14日

【評価実施概要】

事業所番号	2372202065
法人名	有限会社 真
事業所名	グループホーム まこと
所在地	一宮市佐千原字郷前21番地 (電話) 0586-25-0380

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年8月2日	評価確定日	平成19年12月14日

【情報提供票より】(平成19年7月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年9月16日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算 6.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	32,000 円	
敷金	(有)(100,000 円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	(有)(100,000 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(平成19年7月18日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	0名			申請中	1名
年齢	平均 83.4 歳	最低	74 歳	最高	94 歳
協力医療機関名	大山医院・ハセベ歯科・尾州病院				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

4月にホームが移転をし、地域に馴染めるよう行事には積極的に参加するようにしている。また、近所のお店を利用したり、散歩時に挨拶をする等交流を図っている。畑には季節の野菜を入居者に教えてもらいながら育てている。記録類やヒヤリハット、事故報告書等が整備されており、家族との面談時の内容や医療面での報告が確実に行われている。家族アンケートの結果からも、家族との良好な関係がうかがえる。ホームで生活をしながらも、入居者と家族との関係を大切に、家族が来訪した際には、一緒に食事を出かけたり、ホームで家族が入居者と居心地よく過ごしてもらえるよう支援しており、家族も協力的である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 管理者は4月に就任したばかりで前回の評価結果の把握までには至っていない。入居者のペースの尊重については現在取り組みを進めていく段階であり、今回の評価結果も踏まえ優先順位をつけながら実現されることを期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 取締役、管理者は評価の意義を理解しており、ありのままの姿を見てもらい、自分たちの中で当たり前になっていることを振り返る機会として捉えている。職員にも話がされ、自己評価は全職員が取り組んだ。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 7月に第2回目の会議が開催された。メンバーは、一宮市高年福祉課職員、町内会長、民生委員、入居者代表、家族代表等で構成されている。第2回目には防災について話し合い、消防署の方にも参加してもらい、アドバイスを頂いた。メンバーからも積極的に意見や質問があがっている。今後、近所の方にもメンバーになってもらうことを計画している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 管理者は月1回の面談の機会に意見や不満、苦情を聞くようにしている。入居時に外部の苦情相談窓口については説明をしている。運営推進会議では、家族代表が出席し積極的に意見を出してくれている。出た意見に対しては、検討し対応策を報告している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入している。4月にホームが移転し、近所や地域との関係を深めていくために、地域に出て交流するよう取り組んでいる。神社の掃除に参加したり、7月にホームでバザーを行い、近所の人やお店の人、入居者の家族、職員の子ども等が参加した。8月にある町内の盆踊りにも参加する予定である。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が地域の一員として普通に暮らしていけるような支援を目指している。地域との交流を積極的に取り組んでおり、地域の神社の掃除に入居者と職員と一緒に参加している。また、地域のお店を利用することで馴染みの関係を築けるよう努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	誰もが見やすいよう理念は玄関に掲示してある。職員は地域と密着しながら、入居者がその人らしい生活をホームで継続してもらえるよう心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。4月にホームが移転し、近所や地域との関係を深めていくために、地域に出て交流するよう取り組んでいる。神社の掃除に参加したり、7月にホームでバザーを行い、近所の人やお店の人、入居者の家族、職員の子ども等が参加した。8月にある町内の盆踊りにも参加する予定である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	取締役、管理者は評価の意義を理解しており、ありのままの姿を見てもらい、自分たちの中で当たり前になっていることを振り返る機会として捉えている。職員にも話がされ、自己評価は全職員が取り組んだ。前回の評価については会議で話がされた。	○	管理者は4月に就任したばかりで前回の評価結果の把握までには至っていない。入居者のペースの尊重については現在取り組みを進めていく段階であり、今回の評価結果も踏まえ優先順位をつけながらできることから実現されることを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	7月に第2回目の会議が開催された。メンバーは、一宮市高年福祉課職員、町内会長、民生委員、入居者代表、家族代表等で構成されている。第2回目には防災について話し合い、消防署の方にも参加してもらい、アドバイスを頂いた。メンバーからも積極的に意見や質問があがっている。今後、近所の方にもメンバーになってもらうことを計画している。		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	運営推進会議以外でも市との連携を図り、担当者に電話して聞いたり、相談に行ったりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせて報告をしている</p>	ホーム便りは発行していないが、毎月家族が利用料の支払いのため、ホームを訪問した際に面談を行っている。内容は入居者の状況やケア会議で決定したこと、起こり得る事故等について説明をしている。家族にも分かりやすいよう面談内容についてはコピーを取り家族にも渡している。		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	管理者は月1回の面談の機会に意見や不満、苦情を聞くようにしている。入居時に外部の苦情相談窓口については説明をしている。運営推進会議では、家族代表が出席し積極的に意見を出してくれている。出た意見に対しては、検討し対応策を報告している。		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	法人内の異動は無く、4月に管理者が交代をした。新しい職員が入った場合は、入居者に説明をしている。離職する際には1カ月前に申し出て、引継ぎ期間を設けている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時の研修の際には、シフトには入れず職員について実地研修をしている。外部研修は案内を回覧して希望者が参加したり、会社から受けるよう指示することもある。参加した者は研修報告書を提出している。内部の勉強会は職員から声があがり、水銀の血圧計の使い方について以前勉強した。	○	外部研修に参加した場合は報告書を提出しているが、職員間での共有には至っておらず今後取組んでいきたいと考えている。また、内部の勉強会にも力を入れていきたいと考えていることから実現に向けた取り組みに期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一宮市介護サービス事業者連絡会が2カ月に1回開催されており、管理者が計画作成担当者が参加している。ホーム内で実施したバザーには、近くのグループホームの入居者が職員と共にあそびにきてくれた。また、他のグループホームの夏祭りに招待をされており、入居者と一緒に参加する予定をしている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際には、本人、家族に来てもらい説明をしている。また、本人が馴染めるかどうかお試し期間として、体験入居を実施している。家族の事情で来訪が難しい場合は、ホームから出向き本人と面談することもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のできることまで職員が介助していた部分を見直し、入居者の持っている残存能力をどう活かしてもらい自立支援を行なうかを職員が意識し取り組むように努めている。ケア会議の中で入居者の担当者から報告し皆で話し合い検討している。職員は入居者から料理についてや、野菜の選び方など教えてもらうことがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>計画作成担当者が介護計画を作成する時に、1対1で入居者と話し希望や意向を聞いている。帰宅願望の強い方は、外に出て歩いたり、目先を変え別のことに集中できるようにしている。入居者と職員が個別に話しをする機会を設け、思いや意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメント様式はセンター方式を用い、入居者の思いや希望、生活歴を把握するようにしている。介護計画は、計画作成担当者が立て、モニタリングをしている。そして、サービス担当者会議で管理者、計画作成担当者、担当で話し合い確定し、ケア会議で職員に周知している。本人や家族の意向も反映させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、3カ月に1回見直しを実施している。計画作成担当者がモニタリングを行い、サービス担当者会議で協議している。モニタリングシートには、本人や家族の満足度、サービスの実施状況、目標達成度、今後の対応などが記載されている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制加算は受けていない。ホームの協力医が月1回往診にきており、入居者の健康管理に努めている。看護師が職員の中におり医療面において安心できる環境である。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ホームの協力医は月1回往診にきている。変化があった場合はすぐに家族に電話連絡している。入居者の馴染みのかかりつけ医の受診も可能であり、家族が通院の付き添いを行っている。家族から説明を受け、内容を記録している。薬が変更した場合には、連絡ノートに記載し職員の周知を図っている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期については、将来的に必要性を認識しているが、現在ホームとしての取り決めはない。入居者が重度化した場合は、家族、協力医、職員とその都度相談していきたいと考えている。24時間医療行為が必要になった場合はホームでの生活を継続していくことが難しい。</p>		<p>終末期に対する基準が明確にはなっていないことから、今後ホームとしての方針や支援内容について関係者と具体的に話し合いをされることに期待したい。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>言葉かけについては、家族のように接する中で、慣れがでてくることに対して注意していきたいと考えている。見守りを兼ねて、記録をリビングで記載しているが、入居者には見られないよう配慮している。来訪者の面会記録については、職員が記載するよう徹底している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>8月から入浴は、入居者の希望の時間に入浴してもらおうと試みている。食事の時間のずらしは可能であり、体調に合わせて対応している。お酒は、外食の時や行事の際に飲むことがあり、家族や主治医に相談しながら支援している。</p>		<p>職員のペースで進めるのではなく、生活の主体は入居者であると考え、8月から取り組みを始めている。今後も職員で話し合いながら入居者主体の支援を継続されることを期待したい。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は週4日業者に食材を配達してもらっている。その他の3日間は入居者と職員が一緒に買い出しをして料理している。献立は職員が立てており、入居者の希望を聞き取ることはないが、買い物で希望があれば取り入れている。食事の後片付けは職員が声をかけなくても、入居者が自然に行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・水・金の週3日が入浴日となっている。それ以外の日にはレクリエーションや外出の予定を入れている。時間帯は入居者の希望に沿うように入居者にアンケートをとり、朝から夕方まで対応している。入浴日以外は、ほぼ全員が足浴をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の得意なこと、食事の後片付け、畑仕事、裁縫等を生活の中で継続してもらえるよう支援している。毎月レクリエーションの計画を職員が立て実行している。月1回は外出に出かけたり、希望でドーナツを食べに行ったり、入居者に人気のある流しそうめんは度々実施している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	現在は暑いので、散歩は2週間に1回ペースとなっている。ホームの畑の側にはベンチが設置され、夕涼みや椅子に座りながら畑を見たりしている。食材の買い出しに週2~3回入居者と職員が一緒に出かけ、自分のお金で買い物をする入居者もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は施錠していない。鍵をかけることの弊害を理解しており、センサーが玄関とトイレ、非常口に設置され、人の出入りを音で察知している。今後はエスケープした際の対策をケア会議の中で検討していく予定である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議に消防署の方にも参加してもらい指導を受けた。4月に移転してから避難訓練は行っていない。1カ月前に消防署に連絡を入れると訓練に協力してもらえることになっている。災害時の備蓄品については現在、非常袋に1日分程度準備している。		運営推進会議のメンバーから積極的な意見が出されており、防災について色々なアドバイスを頂いている。今後は、運営推進会議を通して避難訓練を地域の方の協力も得ながら実施されることに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	塩分制限の必要な入居者には味噌汁を薄めて提供している。9月1日より、カロリーや脂質、塩分の表示を業者がしてくれることになっている。水分摂取量は1日1,500ccを目安に摂取するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい空間づくりとして、わざと職員から離れた場所に椅子を設置しており、入居者が夕涼みや思いのままに1人で過ごしたり、入居者同士で話しをしたりすることができる。臭気対策として、トイレに臭いがつかないように汚れたらすぐに掃除するよう気をつけている。リビングには、行事の際の写真が掲示されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けとして、タンス、ベッドが用意されており、入居者は小物を持ち込んでいる方が多い。テレビを持ってきている人もいる。		家族と相談しながら、入居者の使い慣れた馴染みの物を持ってきてもらい、安心して過ごせるよう工夫されることを期待したい。

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。